

平和のため後世に語り継ぐ戦争体験

私の小学生時代は（当時は国民学校と呼んでいた）は、日中戦争の最中、昭和15年4月入学でした。昭和16年12月、日本軍がハワイの真珠湾攻撃により太平洋戦争に突入したので、学校教育は軍事一色で、手旗信号、モールス信号の練習等で十分な勉強は出来ませんでした。

5年生頃からは、登校して授業を受けていると、毎日のように警戒警報のサイレンが鳴り響くと、あわてて防空ずきんをかぶり下校しました。家に帰る途中には敵機来襲のサイレンが鳴り、草むらにかくれていると、戦闘機が機銃掃射をあびせました。これで死んだ人も多数いました。私の住んでいたところは柳川だったので、戦災はまぬかれました。

小学生時代、一番心を痛めたのは、私の義兄（姉の夫）が昭和18年に下関から沖縄の高射砲隊こうしゃほうに派遣され、昭和20年に4月アメリカ軍の上陸により、激戦で戦死したことです。当時、陸軍大尉で大好きな義兄でした。有能な若者が命を落としたことは残念でたまりません。

6年生の夏、昭和20年8月15日母と私は庭先の防空壕ぼうくうごうの手入れをし、昼のラジオで天皇陛下の玉音放送を聞いて初めて戦争に敗れたことを知りました。やっと戦争は終わり、翌年は旧制中学に入学しましたが、教科書は新聞紙みたいな印刷物で、自分で切って本にしていました。終戦後は、極度の食糧難になり、米不足で、米は配給制度、衣料品はキップ制度になり、家庭では少しの米でお粥をつくっていました。また、サツマイモやカボチャを食べて空腹を凌いでいました。衣服も人造絹糸のペラペラの粗悪品しかありませんでした。当時は、栄養失調で死ぬ人が多かった。街には傷痍軍人しょういぐんじんの人が資金カンパや戦災孤児の子供が靴みがきや煙草の吸殻拾いをしている有様でした。

色々思い出は尽きませんが、もう戦争はこりごりです。二度と戦争を起こしてはいけません。現政権は過去の歴史を振り返り、丁寧な外交交渉で安全で平和な日本を継続できるよう最善の努力をお願いします。